

医薬品の有効性や安全性など、  
適正使用情報を医療従事者に提供する。



**島崎太郎**さん(1995年生まれ)

伊豆中央高校 出身  
東京薬科大学 薬学部卒業

**大塚製薬株式会社**

東京都千代田区神田司町2-9  
<https://www.otsuka.co.jp/>

なるためには

- 必要資格 / 薬剤師 ※必須ではない
- 主な進路 / 高校卒業→薬学部のある大学に進学→薬学の基礎を学ぶ→薬剤師資格を取得→製薬会社に就職→MRとして勤務

— 学生時代

「テニス部で副キャプテンを務め、部活一筋の高校生活を送った。顧問やキャプテンと部員のあいだに立ち、積極的にコミュニケーションをとりました。そのおかげで傾聴力が身についたと思います。母が薬剤師をめざしていたことや、看護師として働く姉の影響もあり、医療の道をめざすようになりました。卒業後、東京薬科大学に進学しました」

「大学時代について教えてください。」

「1〜3年次は、物理化学や有機化学など薬学の基礎を学びます。ひとつの答えに向かって知識を組み合わせていく過程が、バズルのようでした。4年次からは、実践的な勉強が中心。疾患に対してどの薬剤が使われ、体にとどのように作用するのかなどを学びました。なかでも、症例のディスカッションを先生としたことや、2〜4年次にある『疾病と薬物治療』という授業が印象に残っています。疾患のことを深く知ることができましたし、MRとして働く基盤になっています」

「現場実習について教えてください。」

「いままでは生徒や先生が模擬患者を担当していたので、実習が初めて患者さんと話す機会でした。それぞれ抱える悩みが違いましたし、私たちが聞かせる声があることも実感しました。自分が働く姿を想像しやすかったのが、より将来のビジョンが明確になりました」

— 仕事について

「実習中に、MRの方が医師や薬剤師に薬の説明をする姿を見て、私は薬剤師ではなく新しい知識や情報を提供する立場で働きたいと思うようになりました。現在は、大塚製薬でMRとして働いています」

「仕事内容を教えてください。」

「病院やクリニックに足を運び、医師や看護師、薬剤師などの医療従事者に自社医薬品の情報を正しく伝えることが私の仕事です。意識しているのは、医療従事者の背景にいる患者さんの存在。医薬品ベースではなく、患者さんベースで話をするように心がけています。あとは、自分の話をするのではなく、相手に話してもらおうこと。その話のなかからニーズを引き出していくことが大切です。相手がポロっと口にした言葉をチャンスにつなげて提案をしていきます」

「やりがい」

「医師から、『薬を処方して、患者さんの容体が安定したよ』とか『症状がよくなったよ』という声を聞くとうれしいですね。一番やりがいを感ずるのは、会話のなかから相手のニーズを引き出し、それを満たせることができたときです」

— なるためには

「薬剤師の資格は必須ではありませんが、入社後、医薬品の情報提供をするのに必要なMR認定試験に合格する必要があります。私は薬学部で学んだ知識や実習で得た経験が現在とても役立っています。そのアドバンテージは大きいと思いますよ。なかには、薬剤師資格が必須の製薬企業もあるくらいです。高校卒業後、薬学部で専門知識を学んでおくことをおすすめします。高校時代は、失敗から学ぶことが多かったため、失敗を恐れず、積極的にいろいろなことに挑戦してみてください」

「ありがとうございます」



自分探し

18歳 テニス部の副キャプテンを務め、部活一筋の高校生活を送る。

24歳 東京薬科大学に進学し、薬学の基礎を学ぶ。実習に参加し、将来像が明確に。

26歳 大塚製薬に就職し、MRとして勤務。相手のニーズを満たすことのできる提案を心がける。

先輩のインタビューをもっと見た方は、WEBサイトへ！

<http://amb100search.com>



試作を繰り返し返して商品開発をおこない、  
食卓に笑顔と感動を届ける。



池田楓さん(1996年生まれ)

島田商業高校 出身

常葉大学 健康プロデュース学部卒業

エスエスケイフーズ株式会社

静岡市葵区栄町3-9 朝日生命静岡ビル別館3階

<https://www.sskfoods.co.jp/>

なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校卒業→食品・栄養について学べる大学に  
進学→管理栄養士の国家資格を取得→調味料メーカーに  
就職(商品開発をおこなう部署に在籍)

—学生時代

「商業高校だったこともあり、全商簿記1級、ワープ口検定などの資格を取得しました。あとは、バドミントン部に所属し、副部長としてチームをサポートしたことも思い出に残っています。運動部だったので、栄養素などを調べたり自然と食べるものに気を使うようになり、食品栄養に関することを学べる常葉大学健康栄養学科に進学しました」  
**大学時代について教えてください。**

「国家資格である管理栄養士資格の取得に向けた勉強が中心でした。1、2年次は主に座学。食物に含まれる栄養素、それが体に与える作用、体の構造などを学びました。3、4年次は実習にも行きます。給食実習や病院での栄養指導、保健センターなど行政施設の実習を経験しました。就活の軸にしたのは、学んだことをいかして商品開発に挑戦できる仕事。サラダをおいしく食べてもらふことで、健康と楽しいをお手伝いする『素敵なサラダ計画®』というスローガンに共感し、エスエスケイフーズに就職しました」

—仕事について

「弊社は、家庭用・業務用のマヨネーズやドレッシングなどの開発・製造・販売をおこなっています。開発した商品を通して、食卓に感動を届けることが私の仕事。私は、プライベートブランド(※)の商品開発を担当しています」

「まず、営業担当からお客様の声を商品開発について教えてください。」

—メッセージ

「特に必須資格はありませんが、私は大学で食品に関する知識を学んだことがいかされていると感じます。食品について学べる大学に進学すると役立つと思いますよ。知識と同じくらい大事なのは、食に対する探究心。あとは、食べることが好きという気持ち。その気持ちがあれば、この業界で活躍できるはずですよ。高校時代は、勉強や部活はもちろん、それ以外にも、ボランティアやインターシップなど、いろいろなことを経験して充実した高校生生活を過ごしてくださいね!」  
**ありがとうございます。**



「味づくりに関しては、おいしい、バランスのいい味であることは大前提ですが、それ以上に大切にしているのは、安心安全な商品開発。大学で学んだ知識がいかされている場面も多いですね」

—やりがい

「試作から店頭まで並ぶまでの流れに携わることができると、達成感は大きいです。商品が並ぶ店舗の様子を見たり、テレビ番組で自分が開発した商品が紹介されたりするとうれしいです。あとは、お客様からの『おいしい!』という声が一番のやりがいです」



18歳 資格取得と部活に熱中した高校時代。卒業後、常葉大学へ進学。  
22歳 食や栄養について学び、管理栄養士の国家資格を取得。  
25歳 日々の食卓があたたかい時間になるよう、心を込めた商品開発をおこなう。

先輩のインタビューをもっと見た方は、WEBサイトへ!

<http://amb100search.com>



ITの知識をいかに、  
生産性を上げるためのシステム化を提案。



**村松大輔**さん(1996年生まれ)  
富岳館高校 出身  
静岡産業技術専門学校 みらい情報科卒業  
帝京大学 理工学部卒業

**株式会社天野回漕店**  
静岡市清水区港町2-9-5  
<https://amanok.co.jp/>

なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校卒業→IT関係について学べる専門学校に進学→基本情報技術者試験などの資格を取得→総合物流を展開する企業にシステム企画として入社

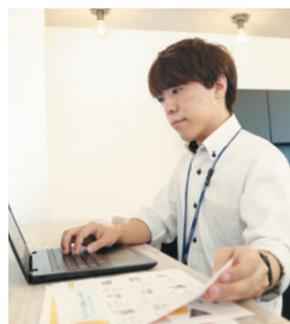
—学生時代

「高校生のときに趣味でプログラミングを始めたのですが、プログラムのデザインをいじっているうちにプログラミングに興味をもつようになりました。単純に、『プログラミングってカッコいい』というイメージもありました(笑)。卒業後、静岡産業技術専門学校みらい情報科に進学しました。」

「専門時代について教えてください。」  
「C言語、Java、Pythonなど、それぞれのプログラミング言語の基礎、サーバ構築の知識や技術を学びました。実際にドローンをスマホで制御するプログラムを組んだりと、実践的な授業も多かったです。在学中に、基本情報技術者試験、MOSなどの資格も取得しました。みらい情報科は帝京大学理工学部情報科学科と提携しており、システム関係の授業だけでなく経済学や地理、語学なども学びました。専門学校で学びながら、帝京大学理工学部卒業の資格も取得できるんです。」

—仕事について

「最初は東京での就職を考えていて東京の企業のインターンに参加したのですが、思ったより通勤が大変(笑)。専門学校の就職担当の方のすすめもあり、天野回漕店に就職しました。あとは、東京の企業は若手が多い印象があつて、それもいいなと思つたのですが、私は同じ会社で長く働きたいという思いがありました。当社のように、幅広い年代が頑張っている会社のほうが将来のビジョンも見えやすかったです。」



仕事内容について教えてください。

「当社は、国内外問わず陸・海・空の総合物流サービスを展開しております。そのなかで私はデジタル推進課に所属し、作業効率や生産性を上げるためのシステム化を検討提案しています。」

システム化というと、具体的にどのようなケースがありますか？

「たとえば、ペーパーレスにできる書類はないかを検討したり、目視で確認していた倉庫内の管理にハンディターミナルの導入を検討したりしています。自分で改善点に気づく場合もありますし、ほかの社員から相談を受けてシステム化に向けて動く場合もあります。どんなプログラムがあれば課題を解決できるか想像し、学んできたITの知識をいかして仕事に取り組んでいます。」

—やりがい

「システム化を進めて、『仕事が早くなったよ』という声を社員の方から聞くとやりがいを感じます。今後は、『とりあえず村松に相談すればなんとかなる』そう思われる存在になりたいです。そのために、日々、知識や経験を吸収しています。」

—メッセージ

「必要な資格やスキルは、物流企業のなかでも部署によって異なります。私のようなシステム関係の部署の場合、IT関係の資格は必須ではありませんが、知識としては絶対にあつたほうが役に立ちます。IT関係の知識が学べる専門学校に進学するのが一般的ですね。この業界は、日々アップデートしている世界です。新しいものが好き、勉強が好きという気持ちも大切です。資格は自分の武器にもなるので、チャンスがあつたら積極的に挑戦してください！」



自分探検

- 18歳 プログからプログラミングに興味をもつ。静岡産業技術専門学校に進学。
- 22歳 プログラミング言語、サーバ構築の知識を学ぶ。卒業後、天野回漕店に就職。
- 25歳 ITの知識をいかに、生産性向上のため、社内のシステム化を推進する。

先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ！

<http://amb100search.com>



楽しい旅行の思い出をつくる  
お手伝いが私の仕事。



**沖京香**さん(1996年生まれ)  
相良高校 出身

つま恋リゾート彩の郷  
掛川市満水2000  
<https://www.sainosato.jp/>

なるためには  
●必要資格 / 特になし  
●主な進路 / 高校卒業→ホテルに就職→レストラン部門に配属→ホテルレストランサービス技能検定を取得

—学生時代

「高校時代に熱中したのは部活動。野球部のマネージャーを3年間務め、部活漬けの高校生活でした。チームとして動くうえで必要なコミュニケーション力も身についたと思います。まわりをよく見て、『いま何をしてほしいのか?』『求められていることが何かを考えながら行動できるようにになりました』」

就職先を選んだきっかけは?

「旅行へ行ったときにホテルで働くスタッフを見て、服装もピシッとされていてかっこいいなあと中学生のときから憧れを抱いていました。ホテルのおかげで『旅行が楽しかった!』という思い出になりましたし、私もそんな楽しい旅行のお手伝いをしたいと思うようになりました。高校卒業後、つま恋リゾート彩の郷に就職しました」

—仕事について

「私はレストラン部門に配属され、最初はお皿を拭いたり、ランチ・ディナーの準備や片付けなど、お客様を迎えるためのセッティングを任せられました。入社当初は、その日の仕事をこなすだけで精一杯…。働いていくうちに少しずつ余裕が出てきましたし、ほかの部門よりもずっとレストラン部門にいたいという思いが強くなりました」

最初に教わったことは?

「一番は笑顔の大切さ。お客様をホテルに迎えるにあたって、『来てくれてありがとう』という気持ちを込めて、声をワントーン高くして笑顔

—メッセージ

「私は入社後、会社の補助を受けて国家資格であるホテルレストランサービス技能検定3級を取得しました。おかげで、ワインやお酒、料理の調理方法や焼き方などの知識が身につきましたし、ワインの注ぎ方や料理の提供方法などの技術も習得できました。でも技術は仕事を始めてからでも身につきます。高校時代は、先生や友達、近所の人など身近な人とのコミュニケーションを大切にしてください。社会では、笑顔とあいさつが本当に大事です。普段の生活から心がけてください!」

ありがとうございます。



18歳 ホテルスタッフに憧れを抱き、つま恋リゾート彩の郷に就職。  
19歳 レストラン部門に配属。ホテルスタッフとしての心構えを学ぶ。  
25歳 旅行や食事が楽しい思い出になるよう、笑顔で日々の仕事に取り組む。



先輩のインタビューをもっと見た方は、WEBサイトへ!

<http://amb100search.com>



地域の人の足となり、安全をお届けする。  
それが鉄道会社の役割です。



**長谷川真孝**さん(1998年生まれ)

藤枝東高校 出身  
神奈川大学 人間科学部卒業

**静岡鉄道株式会社**

静岡市葵区廣匠 1-1-1  
<https://www.shizutetsu.co.jp/>

なるためには

- 必要資格 / 特になし(入社前に適性検査あり)
- 主な進路 / 高校卒業→大学に進学→鉄道会社に就職
- ※高校卒業後に就職することも可能です

—学生時代

「高校時代は写真部に入り、いろいろな場所へ出かけては撮影した写真をコンクールに出していました。昔から鉄道に興味があり、鉄道を整備する職人を撮影した写真で入賞したのはうれしかったです。進路は明確に決めていませんでしたが、興味のある心理学を学べる神奈川大学人間科学部に進学しました」

**大学時代について教えてください。**  
「心理学を学ぶかわらわで飲食店やコンビニなど接客業を中心にアルバイトをしていました。なかでもコンビニでのアルバイト経験は、いまの鉄道業務にも通じる場所があり、お客様の立場に立った主体的な働きかけで笑顔を創り上げていくことのごよこびと大切さを身につけることができました。そして、地元に貢献したいという思いもあり、子どもころからの憧れだった鉄道会社に就職活動でチャレンジし、静岡鉄道株式会社に入社を決めました」

—仕事について

「入社後、新入社員研修が1ヶ月ほどありました。そのあとは、配属された駅の営業所で、先輩社員について券売機の操作など機械の扱い方を一つひとつ教えていただきました。先輩から大切だと言われたのは、確認動作をしっかりとすること。鉄道、索道事業は、お客様の当たり前の日常を当たり前に提供する仕事です。業務やお金のやり取りに少しでもミスがあったら大変なこと

に…。機械操作やお金を数えるときは指さし確認をしています」

**現在の仕事内容を教えてください。**  
「駅係として、無人駅からのお客様のインターホン対応をする遠隔業務や駅に立ってお客様の質問にお答えすることです。駅を利用するお客様は、お子さんから学生、社会人、高齢者など、年齢もバラバラですがみなさん意外と電車の乗り方や切符の買い方を知らない方もいらつしやいます。自分のお客様の立場だったらどうしてほしいかを意識してご案内するように心がけていますが、最初は緊張して早口になってしまつこともありました。入社半年で、やっと慣れてきたように感じます」

—やりがい

「駅に立っていると、お子さんから羨望の眼差しで見つめられることがあります。私も子どものころ憧れていた職業なので、いま自分がその立場になったんだなと感じることも、今度は自分が夢を与える、憧れの存在になれるようにと気が引き締まる思いです」



—メッセージ

「この仕事に就くために必須となる資格はありませんが、就職試験の際に適性検査に合格する必要があります。入社後に、鉄道運転士の免許を取得するためには、社内選考を経て運転士養成所に入所し、筆記試験、実技研修、実技試験、単独乗務訓練と段階を踏む必要があります。小さなころから憧れていた鉄道業界ですが、どうせ無理だろうとあきらめたこともありませんでした。高校生のみなさんには、「どうせ…」とあきらめず、いろいろなことに興味をもってチャレンジしてもらいたいです！」

ありがとうございます。



自分探

- 18歳 趣味の写真部に所属。鉄道の仕事風景写真でコンクールで入賞も。
- 22歳 神奈川大学に進学し、心理学の基礎を学ぶ。卒業後、静岡鉄道に就職。
- 23歳 研修後、駅係として、遠隔業務や駅員の担当をする。

先輩のインタビューをもっと見た方は、WEBサイトへ！

<http://amb100search.com>





迷、たら  
進め  
Azusa



YOUTH  
ユースフラッシュ  
FLASH

静岡出身の有名人インタビュー

浜松商業高校出身のアーチェリー選手、山内梓さんを独占取材!

山内選手がアーチェリーを始めたのは、進学した高校に、入る予定だった弓道部がなかったからという理由とのことです。予期せず飛び込んだアーチェリーの世界ですが、東京オリンピック出場を果たすまでに、挫折と成長を繰り返す山内選手に、目標を実現するために大切なことを聞いてきました。

結果を残せた要因は、何だったと思いますか?

「中学までは卓球部に入っていたりと、アーチェリーとはまったく無縁の生活を送っていました。弓道部だった姉の影響で、高校では弓道部に入ろうと思っていました。袴姿がかっこいいという単純な理由です(笑)。ただ、進学した高校に弓道部がなかったため(笑)、友達とアーチェリー部に入りました。競技自体はまったく知らなかったのですが、弓を引く先輩の姿がかっこよかったです。楽しそうだと思って入部を決めました」

――進路について  
「当初卒業後は就職しようと考えていました。春の選抜大会に出たあと、近畿大学のコーチに声をかけていただいたのですが、そのときも就職が頭にあって断っていたんです。コーチからは、「時間がかかってもいいから真剣に考えてみて」と言われました。インターハイで優勝したときに、また声をかけていただき、近畿大学に進学してアーチェリーを続けようと思ったんです。勝つよるこびをもっと味わいたい。どこまで上にいけるか、できる限り挑戦してみたい。インターハイを優勝したことで、そんな思いが芽生えたのが気持ちが変わったきっかけです」

――学生時代  
「実際に競技用の弓を引いてみただけですけど、重くて最初は全然引けませんでした。弓を引くだけでもこんなに大変なんだって驚いたことを覚えています。1年目は基礎体力づくりのトレーニングから。一緒に入部した同級生も徐々に弓が引けるようになっていくのですが、一番最後まで引けなくて残っていたのが私でした。」「では、最初はつらい思い出のほうがいいですか?」

「矢が射てるようになってからは、アーチェリーという競技自体の魅力にも惹かれていきました。3年のインターハイでは優勝することもできました。2年のときに初めて出場したのですが、決勝トーナメントで敗退してしまい、「リベンジしたい」とずっと仲間と話していたので、優勝できたときは本当にうれしかったです」

「やらないう後悔より、やった後悔のほうがいい」  
この言葉を胸に、何事にも積極的にチャレンジする。

その壁から逃げなかったのは?

「世界で活躍されている先輩と自分のあいだには大きな壁を感じましたが、『自分もあなりたい』という気持ちのほうが強くなりました。私は自分の射ちに自信がなかったため、その壁を越えてもっと上をめざすために、1年間をつぶしてでも基礎から作り直すことにしました。大学に入り、コーチや監督に射形を1から指導していただきました。そのせいで、高校のときよりも点数が下がったりもしました。体の感覚もついていかなかったりして、けっこう悩んだ1年間でしたね。その壁を乗り越えられたのは、2年次の春のリーグ戦。大学の代表として出場したプレッシャーのかる大会だったのですが、教えてもらったことを実践してちゃんと点

数もついてきたんです。結果がついてくることで、基礎が身についたことを実感できましたし、それが自信に変わっていきました」

――大切なこと  
「アーチェリーは、技術力はもちろん重要ですが、それ以上に精神面が結果を左右する競技です。競技中、自分の心の中で『勝ちたい』『外しちゃいけない』という気持ちがやっぱり出てくるのですが、その気持ちが雑念になるんです。気持ちのブレは矢の集まりにも影響してくるので常に平常心、いつもどおりいることを心がけています」

平常心でいるために意識していることは?

「試合形式で採点しながらおこなう点取りを練習のなかに入れて、実践的な練習を増やしました。あとは、自分と同じレベルの選手や上のレベルの選手と、練習後に3本ずつ射って勝負をしたりもしました。プレッシャーのかかるシチュエーションの練習を取り入れるように意識しています。日々の練習の積み重ねが、試合で平常心でいられるコツだと思っています」

――日本代表として

「始めたころは、オリンピックを目標にするなんてまったく考えていませんでした。大学2年のときにナショナルチームに選出されていたのですが、そのときに日本代表として世界と戦うことになりました。なかで目標が『世界』になりました。そこからですね、オリンピックを意識したのは、選考会は、1試合1試合、自身の成長を感じることができました。目標にしていたので、選ばれたときはうれしかったです。誰も目標を実現できるわけじゃないと思いますが、

「シンプルに、普段から人一倍練習するようにしていました。人よりも多く本数を射つこと。私が実践していたのはそれだけです」



オリンピックを終えて、得たものがありますか?

「オリンピックの舞台に立って、たくさん声援をいただいたことがうれしかったです。でも、いい結果が出ていないので悔しさのほうが大きいですね。リベンジしたいという気持ちが強いんです。大学でも悔しい経験がたくさんありましたし、悔しさがモチベーションにつながっている部分もあると思います」

――挫折して終わらないために必要なことは?

「挫折から次につなげるために、私はひとつの目標を心の中にずっともつようにしています。特に大学の4年間はできる限りのことをしようと思っていました。いま自分ができることは何かを考え、ダメだったとしてもやれることは全部やろうと思って練習に取り組みました。あきらめたらそこで終わってしまうから」

――メッセージ

「高校時代は何でもいので熱中できるものを見つけて挑戦してみてください。それが見つかるだけで、毎日が充実すると思いますよ。私は大学でアーチェリーを続けると決めたとき、友達から『やらないう後悔より、やった後悔のほうがいいよ』と背中を押してもらいました。この言葉が印象に残っていて、私は何事にも積極的にチャレンジするようにしています。私の頑張る姿を見て、みなさんも自分の目標に向かって頑張ってください!」

――ありがとうございます

山内梓さん(1998年生まれ)  
浜松商業高校 出身 近畿大学 経営学部卒業



16歳 高校に入り、アーチェリーを始める。3年のインターハイで優勝を掴む。  
19歳 もともと就職する予定だったが、近畿大学に進学。1から基礎を作り直す。  
22歳 東京オリンピックに出場するも、悔しい結果に終わる。次の目標に向けて、日々挑戦を続ける。

お客様の快適な住環境をつくる仕事、  
リフォームをすることで、



**赤崎友飛**さん(1995年生まれ)

静岡西高校 出身  
愛知学院大学 文学部卒業

**ニッカホーム株式会社**

浜松市東区中田町 312-1(浜松東店ショールーム)  
<https://hamamatsuhigashi-nikka.com>

なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校卒業→大学に進学→リフォームなどをおこなう企業に就職→ホームダーナー

——学生時代

「サッカー部に入って、サッカー漬けの高校生活を送りました。負けず嫌いな性格だったので必死に練習に取り組み、ひたむきに努力した経験は自身の成長につながったと思います。歴史が好きだったこともあり、高校卒業後は、歴史学科のある愛知学院大学に進学しました」

大学時代について教えてください。

「日本の中世史を中心に、古文書を学習しながら歴史の勉強をしました。大学時代は、接客のアルバイトにも励みました。お金を稼ぐことの大変さを実感しましたし、いろんな世代の方と接する機会も増えてコミュニケーション力が身についたと思います。就職活動は、営業職を軸におこないました。営業だけでなく現場管理など幅広い仕事を経験できる場所に惹かれ、ニッカホームに就職しました」

——仕事について

「入社後は、先輩と一緒に現場を回って、材料や商品の発注、職人さんへの指示や工程管理についてなど、1から建築のことを学びます。この仕事は、職人さんやお客様など、いろいろな人と人のあいだに入ることが多いので、どうすれば仕事がスムーズに進むのか、現場を経験しながら学んでいきました」

仕事内容を教えてください。

「お客様の快適な住環境をつくる仕事です。お客様が住んでいる場所、これから住む場所を、リフォームすることでより住みやすくすること



私たちの役目です」

仕事の流れとは？

「お客様から問い合わせがきたら、現場調査に行つて寸法を測ります。そして、『なぜリフォームをしたいのか。どのような生活を送りたいのか』など、お客様の要望をヒアリングします。それに応じて膨大にある材料、商品の中から最適なプランを提案します。工事が決まったら、木材から建築資材、ドアやフローリング、クロスなど、現場で必要なものの手配。電気工事、水道・配管関係などの職人さんを手配して工程表をつくり、納期通りに工事が完了できるように管理します」

——やりがい

「ニッカホームの特徴は、最初の打ち合わせから工事完了までひとりの担当者が対応すること。そして、工事が完了したあともお客様との付き合いは続きます。お客様と接する時間がとても長いので、工事中にお菓子や飲み物を出していただくことも。仕事としてお金をいただいているのに、お客様から『ありがとう』と感謝していただけるのは本当にうれしいですね」

——なるためには

「入社後に1から業界の知識を覚えていく人が多いですね。入社時に必須となる資格や知識はないので安心してください。知識より、失敗してもあきらめない粘り強さ。失敗をポジティブに変換して行動できる気持ちのほう大切です。私の高校時代は、ほぼ部活の思い出しがありませんが、でも、何かに打ち込んで努力した経験は、いま私の貴重な財産となつていきます。みなさんも、勉強でも部活でもいいので一生懸命になれるものを見つけて頑張ってください！」

ありがとうございます。



先輩インタビュー

18歳

↓

22歳

↓

26歳

サッカー漬けの高校時代。部活に打ち込んだ経験が財産に。

愛知学院大学に進学し、日本史を中心に学ぶ。卒業後、ニッカホームへ。

どのような生活を送りたいのかをヒアリングし、お客様の快適な住環境をつくる。

先輩のインタビューをもっと見た方は、WEBサイトへ！

<http://amb100search.com>



日本の文化にふれていることを  
日々実感しています。



佐藤太規さん(1999年生まれ)  
藤枝北高校 出身

初亀醸造株式会社  
藤枝市岡部町岡部744  
<https://www.hatsukame.jp/>

- なるためには
- 必要資格 / 特になし
  - 主な進路 / 高校卒業→日本酒づくりをおこなう酒蔵に就職→酒づくりの工程を経験→醸造家

— 学生時代

「高校時代は、学校行事や部活に励んでいました。将来のビジョンはまったくなかったです。オープンキャンパスや企業見学に参加し、ギリギリまで進学するか就職するかで迷っていました。決め手になったのは、初亀醸造へ企業見学に行ったこと。あたたかい職場の雰囲気に惹かれ、未知の世界でしたが、ここで働きたいと思うようになりました」

— 仕事について

「最初は、製造工場での商品の出荷を担当しました。あとは、瓶にラベルを貼ったり、お酒を瓶に詰める作業などを任せられました。そのあとに任されたのは麹づくり。蒸したお米に麹菌をつけて2日間くらいかけて米麹を作る作業です。その後の工程は、できた麹と蒸米と水、酵母を混ぜて酒母を作ります。酒母をタンクに移し、麹・蒸米・水を入れて発酵させて日本酒を作ります。いい酒を作るためには、この『麹』がとても重要。仕込みの米が麹の出来を左右するので、米をていねいに洗うことを心がけています」

仕事内容を教えてください。

「酒づくりは、基本的に10月から4月にかけておこないます。私は現在、酒母を作る工程を担当しています。酒母は、日本酒を作る土台となる液体。酒づくりの最初の工程なので、ここで失敗するとすべてが台無しです…。体を常に清潔に保ち、毎日、温度管理をして育てていきます。4月から10月は、お酒を瓶に詰

— メッセージ

「資格は必要ないですが、日本酒に興味があるなら大学の醸造科などで発酵の専門知識を学んでおく役に立ちますよ。この業界は、若い人が少ないことも課題…。若手といわれる人でも30代。もっと10代20代の子たちが日本酒業界を活気づけてほしいです。それくらい魅力のある業界だと思いますよ。家で食卓を囲んで家族の楽しい時間を作るのもお酒の魅力。コロナ禍で外食が減り、家で飲む機会が増えてきていると思うので、私もそんな家族の時間のお手伝いをしていきたいです。ありがとうございます。」



めたり、ラベルを貼ったりと製品づくりが中心。この時期に営業活動もおこないます。酒屋さんを回って初亀の魅力伝えていきます」

日本酒の魅力とは？

「仕事をしていて思うのは、日本の文化にふれていることを日々実感しています。ジャパニーズサケという英単語があるくらい世界的にも魅力のあるものだと思います。もっと海外に広まってほしいですし、誇りをもって仕事に取り組んでいます。海外に目を向ける一方で、地元にも愛されるお酒であることもとても重要。コロナ禍で事業を継続していくためにもそれを実感しました。地域貢献の一環として、社長が小学校で講演をしたり、蔵見学を企画したりしています」

— やりがい

「うれしいのは、親や友達など身近な人に、『初亀のお酒っておいしいよね』と言ってもらえること。あとは、日本酒のイベントに参加し、飲んでもらった方から『おいしいですね』という言葉をいただいたときにもやがいを感じます。消費者の声を直接聞けることもうれしいです」



- 18歳 夏休みに参加した企業見学がきっかけで、初亀醸造に就職。
- 19歳 製品づくり、麹づくりなどを経験。酒づくりの奥深さを知る。
- 22歳 日本酒の魅力海外にひろめつつ、地元からも愛されるお酒であるよう、日々の仕事に取り組む。

先輩のインタビューをもっと見た方は、WEBサイトへ！

<http://amb100search.com>



ヘアスタイルを通し、  
お客様を笑顔にする仕事。



永田めぐみさん (1992年生まれ)

磐田北高校 出身  
中部美容専門学校 卒業

illuprom.(イルプロム)

浜松市中区佐鳴台 4-3-18 コスモスビル1F 北側  
<https://illuprom.jp/>

なるためには

- 必要資格 / 美容師免許
- 主な進路 / 高校卒業→美容の専門学校に入学→美容師免許を取得→サロンに就職→アシスタントを経てスタイリスト

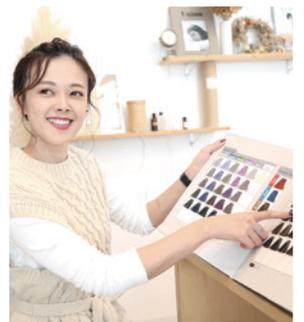
—学生時代

「高校時代は女子サッカー部に入っていて、部活の思い出が多いです。部活からは協調性を学ぶことができたと思います。子供のころから、将来は美容師になりたいと思っていました。いろんな専門学校を調べたのですが、高校の先生のすすめもあり、進学したのは国家試験の合格率が高かった中部美容専門学校。一度は地元を離れて一人暮らしをしてみたいという思いもありました」

「髪を巻くワインディングを中心に、ホイルワーク、カット、シャンプーなど、美容師の基礎となる技術を学びました。ほかにも、ネイルやエステ、メイクや着付けなど美容について幅広く学ぶことができました。印象に残っている授業は、ホイルを使ってハイライトを入れるホイルワーク。カラー技術とデザイン性が求められます。『何分以内にやって』とよく言われていたので、『早く質の高いものに仕上げろ』という意識も養われました」

—仕事について

「アシスタント時代は、マツサージにはじまり、シャンプーやパーマなどを順番に覚えていきます。最後がカット。営業後にカットモデルを集めて練習をします。ウィッグとは髪質も頭の形も違うので、最終試験は何回も挑戦してやっと合格しました。サロンによって違いですが、スタイリストとしてお客様に入るまでに2〜3年はかかると思っています」



—仕事内容について教えてください。

「ヘアスタイルを通し、お客様を笑顔にする仕事です。最初にお客様の希望のスタイルや髪の悩みなどをカウンセリングします。髪質や髪の状態を見て話し合い、理想のスタイルに近づくよう提案していきます。何も決めずに来店されたお客様には、『普段は髪の毛を縛っているのか』など、どんな生活をしているのか、ヘアスタイルを聞き、仕上がりのイメージを擦り合わせていきます」

—心がけていることは？

「たとえば、『ボブ』というスタイルひとつとっても、私とお客様のあいだで髪の毛の長さや雰囲気が微妙にずれているかもしれません。一緒にヘアカメラを見たり、確認をしながらイメージを固めていきます」

—やりがい

「ヘアスタイルが仕上がったとき、お客様のよろこぶ顔を見ることがうれしいですね。イルプロムはアシスタントがいらないので、最初から最後までお客様を手がけることができます。関わる時間が多く、自然とお客様との距離が近くなるので、その分やりがいも大きいです」

—なるためには

「国家試験に合格し、美容師免許を取得する必要があります。高校卒業後、美容の専門学校に進むのが一般的ですね。わたしは進学先を決めるとき、いろんな学校のオープンキャンパスに参加しました。中部美容にも見学に行きましたが、先輩も先生もみんなやさしくて親切に対応してくれました。授業内容や国家試験の合格率だけでなく、そのあたたかい雰囲気に惹かれて選びました。オープンキャンパスは、先生や先輩、学校の雰囲気がわかるので参考にしてください！」



自分探せ

- 18歳 子供のころに通っていた美容師に憧れ、美容師を志す。
- 20歳 中部美容専門学校で美容師としての基礎を学ぶ。美容師免許を取得。
- 29歳 illuprom.に勤務。ヘアスタイルを通してお客様を笑顔に！

先輩のインタビューをもっと見た方は、WEBサイトへ！

<http://amb100search.com>

